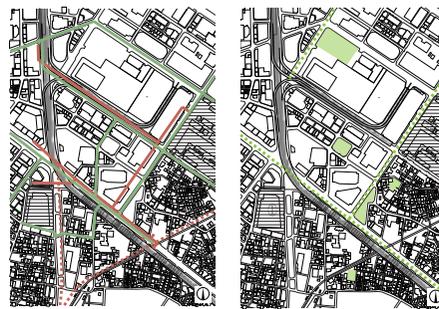


# 風景構成要素の関係性に着目した都市構造物の提案 ーピクチャレスクの現代的解釈を通じてー

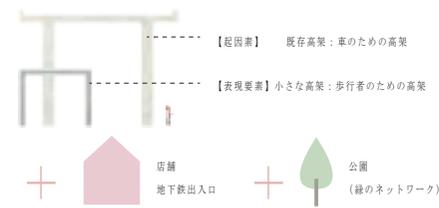


A	受動	a-1. 媒介引用	：ある要素を媒介として環境要素そのものを取り入れる関係
		a-2. 直接引用	：要素を介せずに環境要素そのものを画に取り込む関係
		b. 模倣	：環境要素に言及した上で関係を結ばないという関係
		c. 制御	：環境要素を表現要素によって制御する関係（弱い抑制）
		d. 隔絶	：環境要素に言及した上で関係を結ばないという関係
		e. 相応	：環境要素に対し、それに相応しいと思われる表現をする関係（弱い強制）
B	能動	f. 強制	：環境要素に対し、表現要素において不可避に対応せざるを得ない関係
		g-1. 自己暗示	：環境要素の中で、表現要素によって設計物（自己）を演出する関係
		g-2. 他者暗示	：表現要素によって、環境要素（他者）を演出する関係
		h. 隠滅	：環境要素に配慮し、表現要素を隠滅する関係
		i. 創出	：環境要素の中で、表現要素によって新たな環境要素を創出する関係
		j. 予期	：環境要素の変化を予期し表現する関係

A	崇高	7. 曖昧	
		イ. 力能	
		リ. 欠如	
		U. 広大	
		カ. 無限	
		キ. 困難	
B	美	ク. 明瞭	
		ケ. 細小	
		コ. 平滑	
		ク. 漸進	



●●●● 都電荒川線沿い拡幅道路（計画中）  
—— 地下通路ネットワーク計画路（地下鉄を含む）  
—— 歩行者回遊ネットワーク計画路  
 新規施設（計画中）  
 ①豊島区区役所 ②造幣局跡地活用計画  
 既存公園



## 1. 目的と背景

現代の日本の都市は概して混沌と言われるが、そうした中にもある種の秩序が認められるとし、芦原義信(1918-2003)はそれらを「隠れた秩序」と命名した。今後この混沌とした都市の中で風景を構築していくためには、その影にある「隠れた秩序」の顕在化が1つの手がかりとなると考える。また西欧に目を向けると、現在の都市風景を形成する過程で、多様な要素や感覚が混在した風景を称揚し、ピクチャレスク(picturesque)な風景として追求する流れがあった。そこで本プロジェクトでは、ピクチャレスクな風景がもつ特性に「隠れた秩序」を見出し、現代の文脈に沿った解釈を通じて、今後の新たな都市風景の構築方法を提示する。

## 2. ピクチャレスクの特性

18世紀当時から「ピクチャレスク」という語は多義的であったが、複数の文献における言説を通し考察すると、ピクチャレスクな風景の特性（隠れた秩序）として以下の2点の存在が指摘できる。また、2つの特性について、複数の文献における言説を対象とし、過去および現代の文脈に沿った分析を行う。

**A: 全体性をもたらす風景構成要素間の関係**      **B: 美 (beauty) と崇高 (sublime) の感情**

## 3. ピクチャレスクの現代的解釈

現代・過去共通してある【起因要素】をきっかけにピクチャレスクな風景特性AおよびBが誘起され、その役割を果たすものは建築の外部要素のみならず内部要素にまで及ぶ。また、かつてピクチャレスクは静止した眺め（観察者）が対象であったのに対し、現代のピクチャレスクは歩き回る眺め（散策者）を対象とする事例が見受けられ、風景の全体性は散策者の風景経験の中で構想力によって構築される。

## 4. プロジェクト

今後この混沌とした都市の中で風景を構築していくための新たな方法を提示する。本プロジェクトでは上記分析から見出した、現代の文脈に沿ったピクチャレスク特性AおよびB（隠れた秩序）を誘起する【起因要素】として、連続高架橋を取りあげる。連続高架橋は混沌と言われる日本の都市景観を形成してきた大きな要素のひとつである。

### ー 1. 計画敷地

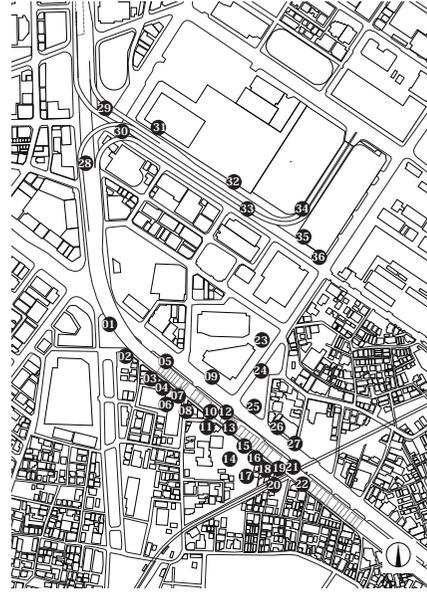
計画敷地とする東池袋地区は北西に池袋、北東に大塚、南側に雑司ヶ谷と接することで、副都心の商業地区と昭和時代の古い複雑さが同居している。現在この地域では、道路拡張や造幣局移転跡地活用等によって前述した複雑な地域性を統合させることを目的とする、再開発が行われている。しかし同時に、そうした大規模な統合によって複雑に混在した地域特性を損なってしまうことも危惧される。そこで、この地域の中心を貫く連続高架橋を（起因要素）とした、東池袋地区の風景の再構成を図る。

### ー 2. プログラム

現在豊島区が取り組んでいる造幣局移転と新庁舎完成に伴う【公園ネットワークを活かした緑化計画、歩行者回遊ネットワーク形成の計画】の一環として、【起因要素】となる既存高架のもと、新規に計画する高架を【表現要素】、高架周辺要素を【環境要素】として計画する。

### ー 3. 要素の抽出

東池袋地区高架周辺の分析から、右表に示す29個の【環境要素】および15個の【表現要素（既存高架下建築物）】、またそれら風景構成要素が現状観ている関係性（特性A）および感情性（特性B）が抽出された。抽出した2つの特性について再構築を行っていく。さらに抽出された風景構成要素および高架周辺の動線調査を元に、ケーススタディとして5つの計画敷地を選定する。



- 各敷地において計画の軸となるもの(動線の集中)
- SITE 1: 高架沿い遊歩道の入口および地下鉄の出入口
  - SITE 2: 公園・緑地の延長および地下鉄の出入口
  - SITE 3: 都電荒川線の駅および地下鉄の出入口
  - SITE 4: 池袋駅からサンシャインをつなぐ歩道橋
  - SITE 5: サンシャイン出入口およびバスの発着駅

